

介護課（本館）

いずみの園は1978（昭和53）年4月、50床の特別養護老人ホームとして開設されました。1992（平成4）年4月には50床の増築を行い100床の入所施設となりました。施設のサービスも集団ケアからご利用者一人ひとりを尊重する個別ケアへと変化していきなまで、2007年に増築改修を行いました。現在、本館87床（内27床はシヨートステイ）、ヨハネ館（新館）40床となっています。

本館は6つのユニットに分かれており、介護課ではそれぞれのユニットのカラーを出しながらご利用者のケアにあたっています。食事、入浴、排泄など基本的な介護サービスはもとより、ユニット内ではご利用者となじみの関係を築きながら、その方の思いに添えるよう最期の時までを安心して過ごしていただけるよう努めています。

ご利用者にとって生活の場、他職種との連携をとりながら24時間途切れること無く支援し、ユニットごとの行事や季節の行事（各ユニットに月一回計画）に参加していただく「居酒屋」でお酒を一杯ということもできます。



食作り風景

スタッフは介護技術・能力・クオリティアップに向け勉強会を行い、スキルアップに取り組んでいます。近くにはいつもスタッフの姿があり、会話やふれあいを通して利用者の笑顔がこぼれるような関係作りに努めています。「ここに居てよかった」「そう思っていただけのこと」が送れるサービスの提供を目指しています。



スタッフのうち出勤者です

中津市地域包括支援センター
いずみの園

「中津市地域包括支援センターいずみの園」は、地域の住民の保健・福祉・医療の向上、介護予防マネジメントなどを総合的に行う拠点です。

中津市より委託を受け、お元氣な高齢の方から介護が必要な高齢の方まで幅広くサポートする地域住民の皆さんの身近な相談窓口です。介護、健康、福祉、虐待防止、権利擁護など、高齢者の暮らしにかかわるさまざまな相談や課題に対応しています。

それらの相談に対して、当センターでは、看護師・社会福祉士・主任介護支援専門員がひとつのチームとして、それぞれの専門性を活かし、関わっています。



健康相談の風景

また、行政、医療、保健、福祉の専門機関、介護サービス事業所、住民組織など、地域のさまざまな組織や人材と連携して、包括的な支援を行います。



スタッフ全員です

「その人らしい生活」の支援



特養事業部リハビリ課主任
理学療法士 高倉 哲也

はじめに、理学療法士（Physical Therapist: PT）とは、ケガや病氣などで身体に障害のある人や、障害の発生が予測される人に対して、座る・立つ・歩く等の動作回復や維持、さらに障害悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法などを用いて自立した日常生活がとれるよう支援する専門職です。

私が所属する特別養護老人ホームでの理学療法士の主な仕事は、リハビリ計画立案・個別機能訓練です。基礎疾患や障がい、それに伴った日常生活上の動作困難等、対象となる方々の心身の状態は人によって異なります。そのため、それぞれの状態に適したリハビリプログラムの立案をし、実施します。

その他の活動は、リハビリテーション指導・助言・援助です。施設内で生活される入所者及びシヨートステイ利用者に対して、私が個別に関わることは、年間通してみると決して十分なものとは言えません。より多くの時間、リハビリサービスの提供が行われることが課題であり、そうした課題を達成するためにも、他職種へのリハビリ指導を行う必要があります。また、ご家族にも助言し、協力を依頼することもあります。

理学療法士は、対象となる方々の施設及び在宅での「生活」における「その人らしい」が尊重され、充実した人生を送って頂くことが目標であると考えています。今後ともご家族・介護・看護・相談員等のスタッフとの連携を密に行い、より良いリハビリサービスの提供が行えるよう努めていきます。



実習生の感想から



大分県立看護科学大学
澤田夕貴・久保亜耶美

いずみの園での実習を通して 学んだこと

今回、私達は「いずみの園訪問看護ステーション」で1週間実習させていただきました。

様々な利用者の訪問に同行させていただき、訪問の限られた時間の中で利用者や家族の思いを聞いたり、ケアをすることの難しさを実感しました。まずは存在を受け入れてもらい、関係作りをしていくことが第一だと感じました。それぞれの家庭により事情や思いは異なり、その思いに耳を傾け、くみ取り、利用者が過ごしやすい、介護者が介護しやすい生活環境を共に考え調整していくという訪問看護師の役割を確認することができました。

さらに、在宅での生活をサポートするために様々な職種が関わり、活発な情報交換を行い、利用者や家族の望んでいる生活に近づくための目標を共有し、連携してサポートをすることが訪問看護の特性であると考えます。

利用者がその人らしく、生活の質を維持・向上しながら日常生活を過ごすために、看護師は広い看護的視点で利用者や家族を捉えて幅広い知識と対応力で支援することが重要であることを学ぶことができました。

今回の実習で学んだことを活かし、今後、看護師として病院で働く際は、退院後、患者が暮らす地域でどのようなサービスが受けられるのかなどを考え、地域に繋げていけるような看護を行っていきたいと思います。

1週間という短い期間でしたが、スタッフの皆様の熱心なご指導のおかげで、充実した実習を行うことができました。ありがとうございました。

大分県立看護科学大学長が「24時間サービス」当園の事業を見学されました。



(在宅サービス事業部訪問看護課)

6月15日、大分県立看護科学大学村嶋学長、江藤准教授と県幹部の方が、いずみの園に見学に来られました。今年度から始まった「24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の指定を受けた当事業所の利用状況と地域看護を進めるうえでの課題について、第一線での実態を把握いただくものです。

当園から富永理事長や法人本部事務局長、担当課長、看護師などが事業概要を説明の後、地域看護について長く学究を積み重ねてこられ、この分野に造詣の深い村嶋学長(前東京大学教授)と意見交換をする機会を持ちました。

1時間40分余を熱心にサービス利用の実態を見学していただきました。いずみの園として2012年5月に指定を受けた地域包括ケアの中心になる本事業について、同学長からも「これまでの多くの利用実績について、1年ごとの追跡調査や変化の契機を類型化し、この取組を発表するなどアウトカムを期待しています。」とのご意見をいただき、職員にとって今後の大きな励みとなりました。



理事長からの施設内案内



挨拶される村嶋学長

ボランティア紹介 〈第1回〉

きしろ むつゆき
木城 睦之 様

私たち囲碁サークルは毎週月曜日午後一時から、聖愛ホーム内で囲碁を楽しんでいます。私が参加しはじめてから十年以上になりますが、その間天国へみまかった人、事情があつて来れなくなった人もいます。現在女性も含め、七十歳から九十歳の人が集います。隣りにはコーヒー喫茶もあり、夏はクーラー

の中、冬は暖房の中にあつて至福の一時です。一局が終わって盤上の石を片づけたら、前の一局をどちらが勝ったのか思い出せない人もいます。こんな状況では到底棋力の向上は無理ですが、この人の口ぐせ「昔はここで俺が一番強かった」と…囲碁はハンディをつけての対局だから、必ず上手が勝つとは限りません。年一回中津市が主催する敬老囲碁大会には揃って参加します。

一人で家に居る人、我々の場に参加して、生活を一層楽しくしませんか。新しい仲間をお待ちしています。



中央が筆者

園内の花木を探索

いずみの園の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介いたします。

●メタセコイア

デイサービスセンターふれんど館の裏手、特養ヨハネ館（新館）の横にひときわ大きな円錐形の木「メタセコイア」があります。

「メタセコイア」は中国原産、スギ科メタセコイア属の落葉高木で、和名はアケボノスギです。最大樹高が115mにも及ぶといわれるセコイアにその姿が似ていることから、メタ（変形した）セコイアと名づけられています。

春は新緑、夏は深緑、秋は紅葉、冬は裸樹と四季折々に姿を変えます。昨年冬に、クリスマスのイルミネーションを行いとても好評でした。



チャブレン通信

「聖書はスルメ」



堤 健生

「牛がよろめいたので、ウザは神の箱の方に手を伸ばし、箱を押さえた。ウザに対して主は怒りを発し、この過失のゆえに神はその場で彼を打たれた。ウザは神の箱のかたわらで死んだ」
旧約聖書 II サムエル記6章

たまたま神の箱が荷台からずれ落ちそうになったので手で押さえた。天罰が下って死んでしまったという事が記されています。これまた私たちには理解し難いような、どういう意味なのかと考えてしまうお話しです。

最近このお話を思い巡らしていてフトひらめいて天の声が聞こえて参りました。「何ごとも力づくでやっちゃいかんよ」「自分の分を越えてやるとだめだよ」「真理というものは力を得ることではなくて身をゆだねるところにあるのよ」と・・・このように読めてくるのです。

聖書はスルメのように始めは味がなくてもかんでいるうちによい味が出て参ります。このところもそのように味が出てきました。皆さんもぜひ聖書をかんでみてください。

売店『えがおや』1周年

いずみの園本館内の売店「えがおや」が昨年6月1日の営業開始から1年が経ちました。

6月に開店1周年記念の「ありがとうの気持ちセール」を行い、洋服やエプロン、ポーチ、ティッシュカバーなどを特価で販売し、とても盛況でした。

委託業者の松村さんにお話を伺いました。

「皆様のお陰で1年間やってこられました。本当にありがとうございます。これからも期待に応えられるようしていきますので、よろしくお願いします。」

どうぞ引き続き、売店「えがおや」をご利用ください。

●営業時間 月曜日～金曜日 / 10:30～15:00
土曜日 / 11:00～13:00

※日曜日はお休みです。



レストラン『ベエルシバ』1周年

いずみの園敷地内、リハビリセンターに併設しているレストラン「ベエルシバ」が昨年7月15日の開店から1周年を迎えました。

「ベエルシバ」は、園内に植えている木などの緑がたくさん見え、とても落ち着く空間です。

6月からポークカレーやコーヒーフロートなど、新しいメニューも加わりました。

施設利用者の方やそのご家族、お客様、地元の方および職員を対象に、飲み物類は100円、デザート類100円～200円、食事は300円～400円と低価格で提供しています。

「いずみの園」にご来園の際は、お気軽にご利用下さい。

●営業時間 月曜日～金曜日 / 10:15～16:00
(11:15～12:15は事業所の利用のため休憩)
※土、日祭日はお休みです。



編/集/後/記

メジロの眼

H大学の教授が「47都道府県幸福度ランキング」を表した。大分県は14番目で九州の中では熊本県・佐賀県（同率5位）に次ぐもの。このランキングは40の指標による結果だが、人口密度と自然がどれほど残っているかが決め手のようだ。あの国民総幸福度を国の目標とするブータン王国も近代化（西欧化）の波に先般の来日で注目を集めた国王夫妻も頭を悩ませているそう。

別な調査もある。M総研の「県別生活満足度ランキング」だ。関西が高く、四国が低いなど、幸福度とは関連性は見られない。この要因は食事、生活の安心、子供の健やかな成長が大きいとか。ほかに、も内閣府の「豊かさ指標」などこの手の調査はメジロ押し。

メジロ子は、「充実度ランキング」を見てみたい。



榎澤・日高・長岡・中村・末延・後藤・松井
(広報委員会全メンバー)



被害にあわれた皆様には一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

豪雨の復旧支援

7月3日と7月11日にかけて（平成24年7月九州北部豪雨）の2度にわたる豪雨により、中津市でも甚大な被害がありました。

いずみの園では、「大分県社会福祉等災害時相互応援協定」に基づき応援要請があり、床上浸水した耶馬溪町にある特別養護老人ホーム「やすらぎ荘」で、5日間延べ15名の職員が掃除、片付けや周辺の泥かさなどの復旧支援を行いました。また、被害にあわれた一般家庭の片付けにも9日間延べ26名の職員が復旧支援を行いました。

いずみの園中央サポートセンター開所



「いずみの園中央サポートセンター」は、中津駅から耶馬溪方面へ向かう212号線沿い(焼肉の「家族亭」さん、酒の「ヨコヤマ」さんと道路を挟んだ正面)に位置し、2012年6月1日より事業を開始しています。

サービスのコンセプトの一つにご利用者の「自由性」を掲げ、活動内容を自分で選び、自分のペースで過ごして頂く仕組みとしています。そのため、ご利用対象者は介護保険認定者で概ね軽度(要支援1・2、要介護1・2あたり)の方とさせて頂いています。

もう一つは機能訓練に力をいれ、麻雀や囲碁、将棋、パソコン、パチンコ、スロット、卓球等男女問わず楽しんで頂けるものを準備しています。機能訓練機器については作業療法士を配置し、日常生活動作の維持・向上を目的とした効果的な訓練を提供できるようにしています。

1日の定員は25名で、サービス提供時間は9:30～16:00となっております。

ご希望に応じて見学や体験利用もお受けしております。また、一般の方のご利用も16:00～18:00の間、有料でご利用頂けますのでお気軽にお問合せください。

●連絡先：0979-649058
(いずみの園中央サポートセンター)

大分県議会委員会の本園視察がありました



大分県議会の県内所管事務調査として、福祉保健生活環境委員会(委員長：毛利正徳、副委員長：中津市選出)の6議員と地元選出の馬場林議員が6月1日に来園されました。

まず、毛利委員長から「本年の3月議会で6人が委員会に新しく所属し、5月17日以降、県内の先進的な取り組みをしている施設等を見学し、今後の県政に反映していきたい。」とのご挨拶があり、土居副委員長、阿部(英)議員、小嶋議員、玉田議員、戸高議員、三浦議員の各委員の自己紹介の後、当法人常理事長の挨拶、在宅サービス事業部からの「24時間対応定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の業務説明を行い、続いて県議からの質疑と現場での声や看護業務の人材確保についての意見交換を行いました。

最後にコールセンターで実際のやり方を見ていただき、1時間間にわたる事務調査を終えました。



こうした機会に県議の方に業務の実際を見ていただき県政に声が届くことは意義深く、遠路お越しいただいたことに感謝申し上げます。

(法人本部事務局)

第14回 いずみの園フェスタ 開催

日時 10月20日(土) 午前10時～午後2時

会場 いずみの園 中津市永添2744 (総合グラウンド近く)

イベント 「大分トリニータの選手」と盛り沢山 「ニータン」がやってくる!!

- 屋台・バザー・わんぱくコーナー ●もちつき
- 献血車 ●顔写真入りカレンダー作成
- 高齢者福祉・介護相談 ●健康・介護保険相談
- 小笠原古流お茶会 ●自助具製作・体験コーナー

- ステージ
- ・琴城流大正琴大分県北部支部琴好会
 - ・大分県糸口学園 糸口太鼓
 - ・琉球國祭り太鼓(大分支部)
 - ・よさこい踊り 大分舞華軍団 おかみさんクラブ
 - ・オカリナ同好会トトロ

協賛/中津ライオンズクラブ



合同慰霊盆踊り

今年も8月16日に初盆の方を慰霊する盆踊りが行われました。

この盆踊りは、毎年上ノ原地区といずみの園が合同で行っています。

まず、2曲踊った後、末廣区長、常理事長、清水市議から挨拶がありました。

夕暮れの中で響く太鼓の音に合わせ浴衣姿の職員達、ハッピ姿の入所者やご利用者と地区の方が入り交じり、最初は小さかった輪も次第に二重三重と大きな輪になっていきました。

盆踊りで久々に会われた方と話を交わし、まじりの姿や普段とは違う浴衣姿に驚かれた顔、あちらこちらで笑顔があふれていました。

最後には花火とお楽しみ抽選会があり、自分の番号が呼ばれないかと一喜一憂する子供達の姿に和やかな空気が流れました。

上ノ原地区の皆様と毎年一緒にいるこの行事を大切にしていきたいと思っております。

(広報委員)

